

近世中国語シソーラス研究 — “知道”、“曉得”等 —

植田 均
Hitoshi Ueda

0. 問題の所在

1. 近世中国語における同一文中の“曉得”と“知道”との用法
2. 方言文学言語における“曉得”と“知道”
3. 近世中国語における“曉得”の浸透率
4. 結語

0. 問題の所在

《現代汉语词典》における“曉得”の積義は“知道”と明記されている。¹⁾ さすれば、“曉得”と“知道”の積義は「知っている」という同義語である。この両者はまったく区別がないのであろうか？現代共通語の大枠基準とされる《現代汉语词典》、《汉语拼音词汇》、《古今汉语实用词典》等においても<方>符号がない。²⁾ このことから、“曉得”と“知道”とは、方言と共通語の区別もないとの見方も出てくるのかもしれない。

今、“曉得”と“知道”の差異を旧白話から現代語へと辿って検証する。

1. 近世中国語における同一文中の“曉得”と“知道”の用法

香坂 1995 : 361 に「“曉得”は“知道”と同義語であり、文学言語（新旧白話を含め）ではこの両者を区別なく用いられている」とある。³⁾ “曉得”は“知道”と同様に用いられる現象がある。それは、以下に示す如く、同一文中に両者の使用例が見られる。近世中国語資料からの例。

- (1) 一丈青道：……。他纔十二歲，曉得甚麼，知道毛必生在那塊兒。（《金瓶》28.8b.5）⁴⁾
（一丈青は「……。あの子はやっと 12 歳だよ。何がわかるっていうの？あそこがどこだかわかっちゃあいないのよ！」と言った）
- (2) 月娘道：……。別人不知道，自我曉得的。（《金瓶》75.22b.7）（月娘は「……。他の人は知らないけれど、私は知っているわって感じよ。」と言った）
- (3) 老侯：……。你不曉得的，張嫂子是知道的。（《醒世》74.3b.4）⁵⁾（老侯は「……。あんたは知らないだろうが、張ねえさんは知っとるぞ」と言った）
- (4) 奶子道：……。大家都不知道的，我如何曉得。（《拍案》36.14b.9）⁶⁾（乳母は「……。みんなは知らないのに、わたしがどうして知っているの！？」と言った）
- (5) 引姐私下寄衣寄食去看覷她母子，只不把家裡知道，惟恐張郎曉得，生出別樣毒害來。

(《拍案》38.17b.10) (引姐はひそかに衣類や食べ物を送って親子をみていたが、家の中で知られていないようにした。ただ張郎に気づかれて別に害毒を生みだされるのを恐れた)

(6) 丁言志道: 四先生, 你不曉得, 我難道不知道他是陳和甫先生的兒子。

(《儒林》54.13.a.5)⁷⁾ (丁言志は「四さん、あなたをご存知ないでしょう。私が、やつのことを陳和甫先生の息子だと知らないだけでも?」と言った)

(7) 安老爺道: ……曉得你的大名, 這班人, 你叫他從那裡知道你。(《兒女》31.25b.7)⁸⁾

(安旦那様は「…。あなたのご高名がわかったのです。それだから、こやつら、どこからあなたのことをわからせるのですか?」とおっしゃった)

例(2)の少し前の箇所にも同一内容の文で“曉得”の箇所に“知道”を使用している。それを次の例(8)に示す。このことから“曉得”と“知道”は同じことを示すと思われる。その例。

(8) 月娘道: ……別人不知道, 我知道。(《金瓶》75.22b.4) (月娘は「…。他の人は知らないけど、私は知っていますって感じだわ」と言った)

このように、同一文中に両者の使用例が見られ、その用法、意味も同様のようである。これらの点から、近世官話資料では、両者間に差がないように思われる。では、近世官話資料にはこの両者の差異は全くないのであろうか?

官話においても“曉得”が“知道”よりも優勢を示す資料がある。《金瓶》の一部(第53回~57回)と《拍案》である。《金瓶》の第53回~57回は、南方人が補作したと言われている箇所で、この章回に“曉得”が24条も見られる。これに対し、“知道”はわずか5条にすぎない。この箇所の“曉得”の例。

(9) 劉婆道: 小奴才, 你曉得甚的。(《金瓶》53.12b.8) (劉婆さんは「この奴隷めが、お前に何がわかるっていうのかね?!」と言った)

(10) 薛姑子道: 老爹, 你還不曉得的。(《金瓶》57.11b.11) (薛尼は「旦那様、まだおわかりになりませんか。…」と言った)

《拍案》では“曉得”の出現頻度が“知道”よりも三倍以上という高い優勢度を示している。《拍案》の例。

(11) 知觀道: 我與你的事, 須有人曉得。(《拍案》17.29b.4) (知観は「ワシとお前様の仲は、きっと誰かが知ることになるだろう」と言った)

(12) 趙尼姑道: 大娘年紀小, 不曉得求子法。(《拍案》6.13b.5) (趙尼は「奥さまはお若いですから、子縁成就法をご存知ないのです」と言った)

《金瓶》の一部(第53回~57回)と《拍案》は、南方語系語彙が多く含まれている点が共通項である。してみると、“曉得”は南方語系語彙だと自ずから分かる。⁹⁾

更に、WADE1886に“曉得”は未収である(ただし、“知道”は収録)。¹⁰⁾ WADE1886は、19世紀(清代)の北京語を反映しているとされる。これに未収というのは、“曉得”が北方語ではないという証であろう。C.W.MATEER 1916: 10は“知道”と“曉得”の差異

を「“知道”は北方で、“晓得”は南方で用いる」という。¹¹⁾ また、曹志耘 2008 : 154 では、“晓得”は現代方言の華東、華南区域に分布することを示し、“知道”が北方に分布するのとは好対照である。¹²⁾ 許寶華等 1999 : 4812、郭作飛 2008 : 347 では“晓得”を方言語彙であるとする。¹³⁾ これらは、“晓得”が南方方言であることの確証を示すものと思われる。これらと《現代汉语词典》、《汉语拼音词汇》等の“晓得”に<方>符号を冠しない点との整合性はどうか？

この解決法を模索するためにも、“晓得”と“知道”の区別ばかりではなく、“晓得”そのものに焦点を合わせたほうが良いのではないかと考える。その場合、現在でも呉語区域の方言では圧倒的に“晓得”を用いるゆえに呉語方言文学資料《海上》を材料にして検討を加えた。¹⁴⁾

2. 方言文学言語における“晓得”と“知道”

《海上》は方言文学資料である。そこでは会話の箇所が呉語（方言）、非会話の文が通語（当時の共通語）で書かれている。但し、“晓得”と“知道”が会話文、非会話文のどちらに用いるかは原則自由のはずである。ところが、セリフの箇所では“晓得”、地の文では“知道”（または“知”）を用いるという一貫した意図で行われている。《海上》からの例。

(13)黄二姐…說道：湯老爺末也晓得點俚哉。(《海上》7.1b.10)¹⁵⁾ (黄二姐は…
「湯旦那様も彼女のことは少しはご存じでしょ」と言った)

(14)黄二姐笑攔道：晓得哉。耐個人陸裡有推板，勳看哉。(《海上》49.2a.2) (黄二姐は笑ってさえぎり「わかったわ。あんたって人はまともだからね。見る必要もないわ!」と言った)

(15)翠鳳囑道：晚歇耐要來個啞，勿晓得俚啖贖身文書寫個阿對。(《海上》49.5a.2) (翠鳳は言い含めた「あとで来てね。身請けの証文がうまく書けているかどうかかわからないから」と)

(16)接著周雙寶哀哀的哭起來，知道是周蘭把雙寶打了一頓。(《海上》17.2a.3)
(続いて周双宝はつらくて泣きだしたので、周蘭が双宝をぶったのだとわかった)

(17)這日八月廿八，趙樸齋知道小王自必隨來。(《海上》51.2a.9) (その日は八月二十八日であったが、趙朴齋は小王が必ず付いてくると知っていた)

上記用例の最初の三つは会話文ゆえ、“晓得”を用い、後の二つは非会話文ゆえ“知道”を用いている。呉語では“晓得”が口頭語で、“知道”が書面語である。逆にいえば、《海上》では“晓得”が書面語になり得ず、“知道”が口頭語になり得ていない。¹⁶⁾

このように、“晓得”は、呉語区域では口頭語にすぎず、書面語としては極めてなじみの無い、不安定な状態にあった。“知道”が非会話文にのみ使用、つまり書面語として認定されているのを考えると、《海上》において“晓得”と“知道”は厳然と区別されている。

ここで考えなければならない点は、これまで“晓得”と“知道”の両者の比較ばかりが注目され、“晓得”そのものの用法に注意が払われてこなかったことである。今、“晓得”

そのものの特徴に焦点を合わせる。

即ち、“曉得”は《海上》で使用されている全用例 288 条のうち、非会話文ではわずか 2 条しかない点である。これは、“曉得”という口頭語（＝方言）が清末の時代、蘇州、上海等の呉語区域において書面語などの公式表現としてさほど浸透していなかったことの証ではないだろうか。非会話文では専ら“知道”（または“知”）を用いていた。“知道”の地盤に対し、“曉得”が地の文へ割り込む比率は、わずか 1%にも満たないのである（使用頻度 0.7%）。これは、公式表現の中にほとんど浸透していなかったと言えるのではないだろうか。

“曉得”の会話文、非会話文の使用頻度比率が、“曉得”の浸透率だという点に注目すべきであると考え。では、近世中国語の官話資料では、この両者はどのように反映されているのだろうか？

3. 近世中国語における“曉得”の浸透率

“曉得”の会話文、非会話文の比率が、“曉得”そのものの「書面語としての浸透率」である。即ち、非会話文に多く使用されれば、成書されたその時代、その地域に「書面語として浸透している」のである。この前提に立てば、各資料における出現頻度も首肯できるのである。

《水滸》100 回本では、“知道” 119 条に対し、“曉得”の使用数はたった 16 条である。このように、“曉得”と“知道”の出現頻度を見れば、“知道”の方が圧倒的に優勢であり、“曉得”はごくわずかにすぎない。ゆえに、《水滸》は北方語系資料であるとわかる。

《水滸》における“曉得”の例。

(18)武松…對何九叔道：小子麓疏，還曉得冤各有頭，債各有主。（《水滸》26.7b.7）

（武松は…何九叔に「ワシは荒くれ者だが、あだを結べばあだを討たれるものだし、借金すれば取り立てにあうということくらいは知っています」と言った）

(19)那張三亦是個酒色之徒，這事如何不曉得。（《水滸》21.4a.5）（かの張三は酒色の徒であります。こんなことぐらいどうして分からないことがありましようか?!）

《水滸》は、“曉得”の非会話文における使用が、100 回本で 5 条のみの如く極めて少ない（会話文では、ほぼ倍の 11 条である）。これは“曉得”「書面語としての浸透率」が少ないことを示す。

なお、《水滸》は“知”の出現が極めて多い。とりわけ、非会話文に多い。¹⁷⁾

《金瓶》の場合、第 53 回～57 回の“曉得”の出現に特徴があった。この章回に於いて、“知道”の出現数は“曉得”の五分之一にすぎないからである。これら以外の章回は、“知道”が“曉得”よりも 3 倍以上にも達し、圧倒的優勢であり、この点からも《金瓶》は北方語系資料であるとわかる。

第 53 回～57 回以外の例。

(20)吳銀兒道：你兩個怎的曉得的。（《金瓶》43.7b.11）（吳銀兒は「どうして知っている

の？」と言った)

- (21)那李通判大喝一聲:你女婦人家,曉得甚麼。(《金瓶》92.10a.1) (李通判は「お前たち子どもに何が分かるのか」とひどくどなりつけた)

《金瓶》も南方人の補作箇所を除けば、“曉得”の会話文、非会話文の比率は約 10 : 1 で、非会話文における使用がかなり少ない。ただし、《金瓶》の場合、会話文における“曉得”の使用が《水滸》の約 7 倍に到達するほど、相当増加している。これは、時代がやや下がる《金瓶》において“曉得”が普及してきている証だと思われる。

《醒世》の場合、“曉得”の会話文、非会話文の比率は、非会話文での使用が《金瓶》よりも格段に多い。したがって、前述「書面語としての浸透率」の前提に立てば、《醒世》では“曉得”は《金瓶》に比べて多く「書面語として浸透している」といえる。《醒世》における会話文中の例。

- (22)童奶奶道：這卻我不得曉得的。(《醒世》55.2a.10) (童婦人は「これは、私は知りません」と言った)

- (23)呂德遠道：若是叫他曉得,自然是當不起的。(《醒世》96.7b.7) (呂德遠は「もし奥様にばれば、勿論手に負えなくなります」と言った)

《拍案》の場合、“曉得”の会話文、非会話文の出現比率でいえば、1 : 2 を示していて、各資料の中でも《拍案》は特異な存在である。《拍案》では《水滸》、《金瓶》、そして、その後の《紅樓夢》、《儒林》、《兒女》よりも“曉得”は浸透しているといえる。《拍案》からの例。

- (24)秀才…便問道:你曉得那個人是何人。娘子道：我那曉得。(《拍案》6.21a.2)

(秀才は…「お前はその輩が何者か知っておるのか」と尋ねると、妻は「わたしはどうして知っていますか」と答えた)

- (25)知觀…道:…。元來主人娘子是我的表妹,一向不曉得。(《拍案》17.14a.10)

(知観は…「…。もともと旦那さまと奥さまは私のいとこに当たります。これまでそれが分かりませんでした」と言った)

- (26)縣令曉得多是良家婦女。(《拍案》24.16a.8) (県知事は、全てが良家の婦人であることをわかっていました)

《金瓶》第 53 回～57 回、《拍案》、《海上》の出現状況と正反対の現象を示すのが《紅樓》前 80 回である。ここでは“曉得”そのものの使用例が少なく、且つ、非会話文での使用例が皆無である。“曉得”の「書面語としての浸透度」は極めて低いといえる。逆に、ほとんど“知道”を用いる。

《紅樓》前 80 回からの数少ない“曉得”の例。

- (27)寶玉笑道：夜裡失了盜也不曉得。(《紅樓》28.12a.6) (宝玉は笑って「夜中に泥棒に入られても分からないのだろうね」と言った)

- (28)鳳姐兒…便笑道：姑媽那裡曉得。(《紅樓》35.4a.10) (鳳姐兒は…笑って「おばさまは知るはずもございませんわ」と言った)

(29)林之孝忙答應：曉得。(《紅樓》29.3b.10) (林之孝は慌てて「分かりました」と答えた)

《紅樓》後 40 回も“曉得”は前 80 回同様、極めて少なく、“知道”が非常に多い。この点では前 80 回も後 40 回も同様の傾向にある。後 40 回からの“曉得”の会話文からの例。

(30)代儒告訴寶玉道：……。我纔曉得你怎麼個分兒上頭。(《紅樓》81.13a.3) (代儒は宝玉に「そうして初めて、ワシはお前がどの程度まで進んだのか分かるのじゃ」と言った)

(31)吳良說：……。不曉得怎麼樣就碰在那腦袋上了。(《紅樓》86.4a.10) (吳良は「……。どうしたとか、その頭にぶち当たったのです」と言った)

(32)寶玉……微微的笑道：……。如今纔曉得聚散浮生四字。(《紅樓》118.10a.1) (宝玉は……微かに笑って「……。今ようやく<聚散浮生>の四文字の意味が分かりました。」と言った)

《紅樓》後 40 回と前 80 回の差異は、“曉得”が少ないながらも後 40 回の非会話文に用いられている点である。これは、わずかながらも“曉得”の浸透が見られるのではないだろうか。《紅樓》における非会話文の例。

(33)寶釵看他這樣,也曉得是個沒意思的光景。(《紅樓》109.9a.4) (宝釵は彼のそのような有様を見て、おもしろくないようだとわかりました)

(34)甄寶玉聽說心裡曉得他知我少年的性情。(《紅樓》115.6b.1) (甄宝玉はきいて、心の中でその人は自分の若いころの気持ちを知っているとわかった)

《儒林》、《兒女》の“曉得”は、《紅樓》前 80 回、後 40 回に比べて、会話文、非会話文ともに、かなり増加している。《儒林》、《兒女》はほぼ同様の傾向を表わす。この点から、“曉得”が《紅樓》に比して相当浸透してきているのが分かる。

《儒林》の例。

(35)蘧公孫道：這個何妨。但我曉得長兄先生也是吃不慣素飯的。(《儒林》13.10a.5) (蘧公孫は「大丈夫ですとも。ただ、あなた様が精進料理を食べつけていないのはわかっております」と言った)

(36)虞博士笑道：陰鷲就像耳朵裡嚮,只是自己曉得,別人不曉得。(《儒林》36.5b.9)¹⁸⁾ (虞博士は笑って「陰徳というものは、耳の中で鳴るものです。ただ、自分だけが知っていて、他人は知らないものなのです」と言った)

《兒女》の場合、同じ清代北方語系資料の《紅樓》前 80 回、後 40 回に比べて、“曉得”が浸透していったのであろう。《紅樓》とは、時代的差異が認められる。¹⁹⁾

《兒女》の例。

(37)那張金鳳跪著不肯起來,說道：……。怎的就曉得我在此地遭這場大難。(《兒女》7.18a.2) (かの張金鳳は跪いたままで起きようとはせず「……。どうして私がここで大変な目に遭うって知っているの?」と言った)

(38)姑娘……因問道：……。怎的曉得他是我的仇家。(《兒女》18.3a.2) (娘は……そこ

で「…。どうしてその人が私の仇だと知っているのですか？」と尋ねた)

なお、《兒女》における会話文中の“晓得”の話者の男女比率及び職階などに差は見られなかった。

参考に、明清代における“晓得”と“知道”の出現一覧表を掲示する。

[“晓得”と“知道”の出現一覧表]

作品名	晓得		知道	
	会話文	非会話文	会話文	非会話文
拍案驚奇	96	208	40	45
金瓶梅詞話 (第 53 回～57 回)	14	10	5	0
金瓶梅詞話 (第 1 回～6 回)	2	1	5	3
金瓶梅詞話 (上記以外の箇所)	75	7	336	38
水滸全傳 (第 91 回～110 回) ²⁰⁾	4	4	12	8
水滸全傳 (上記以外の箇所)	11	5	75	44
醒世姻縁傳	92	146	258	117
紅樓夢 (前 80 回)	7	0	496	55
紅樓夢 (後 40 回)	6	4	302	71
儒林外史	60	33	143	57
兒女英雄傳	79	33	184	39
海上花列傳	286	2	0	64

*) 太字は、“晓得”の出現頻度が“知道”よりも優勢を示す資料である。

明清代における同じ北方語資料として《水滸》、《金瓶》、《醒世》、《紅樓》、《兒女》が存在するが、“晓得”の使用頻度に各々傾向が少しずつことなるのは、時代的、方言的差異にほかならない。

4. 結語

《海上》の会話文、非会話文の比率を比較した結果、“晓得”は会話文の箇所に圧倒的多数で使用されている。非会話文では 0.7% しかもちいないという事実は、その時代、その資料の地域では“晓得”が通語（共通語）としてまだ「書面語として浸透」していず、単なる音声にすぎなかったことを示している。

“晓得”は方言であった。ところが、旧白話を経て、徐々に共通語化してきている。それが、《現代汉语词典》、《汉语拼音词汇》等に<方>符号を冠しない点にも表れている。

[注]

1) 《現代汉语词典》(第 5 版) p.1502。なお、詹伯慧等 1991 : 463 の“知道”項に同義語として“晓得、

知、知晓、知影、八传”が見える。曹志耘 2008 : 154 でも“知道”項に同義語として“知、知道、知晓、知得、知着、知掌、知影、知 X, 晓、晓得、晓知、晓识、晓到、晓着、晓 X, 识、识到、识着、八、八传、解八、认得、省得、猜到、明白 等”が見える。

2)《现代汉语词典》(第5版) p.1502、《汉语拼音词汇》(1989年重編本) p.634、《古今汉语实用词典》 p.862。

3)香坂順一, 『<<水滸>>語彙と現代語』(1995年刊)。

4)《金瓶梅詞話》:略称《金瓶》。各用例には通し番号を付す。末尾にある数字等は、順に章回数、葉数、行数を示す。なお、aは葉のオモテ、bはウラを示す。日本語訳は筆者。以下、同じ。

5)《醒世姻縁傳》:略称《醒世》。以下、同じ。

6)《拍案驚奇》:略称《拍案》。以下、同じ。

7)《儒林外史》:略称《儒林》。以下、同じ。

8)《兒女英雄傳》:略称《兒女》。以下、同じ。

9)宮田一郎 2005 : 249 は、語彙面で下江官話系が多いと思われる清末白話資料《官場現形記》の言語のなかで「“晓得”は400例ほどみられるが、これにくらべて“知道”の用例はすくない」という。

10) WADE1886, 《語言自邇集》。

11)C.W.MATEER1916, 《官話類編(A COURSE of MANDARIN LESSONS)》:“知道 is rarely heard in Nanking or South;晓得 is also used in the North, but somewhat sparingly.”

12)曹志耘主編,《汉语方言地图集・词汇卷》、郭作飛,《張協狀元詞彙研究》。

13)許寶華、宮田一郎,《汉语方言大词典》,中华书局,1999年。

14)《海上花列傳》:略称《海上》。以下、同じ。

15)小稿では、《海上》の挿繪箇所を葉数にいれない。

16)《海上》の普通話改作本では、セリフ文における“晓得”の箇所を多く“知道”に書き換えている。普通話ではどうしても違和感があるのであろう。

17)文言では、“晓得”は“曉”、“知道”は“知”である。旧白話は文言的要素が多く取り込まれている資料もある。そこでは、単音節の“曉”、“知”も自ずと多くなる。

18)“耳朵裡嚮”の“嚮”は意味的には“響”とすべきだが、原文に従う。

19)《紅樓夢》と《兒女》の時代的差異については、太田 1974 に「清代北京語の資料としては、《紅樓夢》が著名である。《兒女英雄傳》の言語とこれを比較すると、時代の差は歴然たるものがある」と指摘されている。

20)第91回~110回の版本は排印本を使用。

【資料】

施耐庵集撰、羅貫中纂修,《李卓吾批評忠義水滸傳》(全五冊,「古本小説集成」所収),上海古籍出版社,1994年。

施耐庵集撰、羅貫中纂修,《水滸全傳》(全三冊),中華書局香港分局,1975年。

笑笑生,《金瓶梅詞話》(萬曆本),東京・大安影印本,1963年版。

凌濛初,《拍案驚奇》(全三卷,「白話小説三言二拍」所収),ゆまに書房,1986年。

- 西周生,《醒世姻緣傳》(全五冊,袁世碩前言,「古本小說集成」所收),上海古籍出版社,1994年。
- 吳敬梓,《儒林外史》(全四冊,「古本小說集成」所收),上海古籍出版社,1994年。
- 曹雪芹,《脂硯齋重評石頭記》,中華書局香港分局,1977年版。
- 曹雪芹,《原本紅樓夢》,(戚蓼生序本,「古本小說集成」所收),上海古籍出版社,1994年。
- 曹雪芹、高鶚,《程甲本原本紅樓夢》,北京·書目文獻出版社,1992年(影印本)。
- 文康,《兒女英雄傳》,「古本小說集成」所收,上海古籍出版社,1994年。
- 韓邦慶,《海上花列傳》(全二冊,「古本小說集成」所收),上海古籍出版社,1994年。
- 韓邦慶,《海上花列傳》(清末方言小說 普通話改寫本,吳越改寫),北京燕山出版社,1991年刊。
- 許寶華、宮田一郎,《漢語方言大詞典》(全五冊),北京·中華書局,1999年。
- 曹志耘主編,《漢語方言地圖集·詞匯卷》,北京·商務印書館,2008年。
- 郭作飛,《張協狀元詞彙研究》,成都·四川出版集團巴蜀書社,2008年。
- 中國社會科學院語言研究所詞典編輯室,《現代漢語詞典》(第5版),北京·商務印書館,2008年。
- 《漢語拼音詞匯》編寫組,《漢語拼音詞匯》(1989年重編本),北京·語文出版社,1995年。
- 吳昌恒、陸卓元、韓敬體、呂天琛、陸尊梧、李志江、李玉英,《古今漢語實用詞典》,成都·四川人民出版社,1989年。
- 詹伯慧、李如龍、黃家教、許寶華,《漢語方言及方言調查》,湖北教育出版社,1991年。
- 香坂順一,『《水滸》語彙と現代語』,光生館,1995年。
- 太田辰夫 1963,「《兒女英雄傳》語彙調查」(B1~B29),『清末文學言語研究會』,大阪市立大學中國學研究室刊。
- 太田辰夫,「《兒女英雄傳》の言語」,『日本中國語學會報』第26集,1974年(『中國語史通考』,白帝社,1988年刊所收)。
- 宮田一郎,『宮田一郎中國語學論集』,光生館,2005年。
- FRANCIS THOMAS WADE,《語言自邇集》(第二版)[張衛東譯],北京大學出版社,2004年(原版:1886年刊)。
- C.W.MATEER,《官話類編(A COURSE of MANDARIN LESSONS)》,SHANGHAI: AMERICAN PRESBYTERIAN MISSION PRESS,(ABRIDGED EDITION) 1916年([FIRST EDITION,1882][SECOND EDITION,1898])。
- 葉祥苓,《蘇州方言詞典》,江蘇教育出版社,1993年。

【付録】

《醒世姻縁傳》第1回～33回に見える“知道”、“曉得”類の出現状況。

—凡例—

- 1) 各章回において、どの語の使用が多いか、また、どういう状況下で使用されているか理解できる。
- 2) ここでの排列順序は“知道”“不知道”“知”“曉得”“曉”等である。
- 3) 会話文では話者に注目した。話者名を括弧に入れた。[例]：(△△)：……。
- 4) 単音節語“知”、“曉”は、単独使用がほぼ無い。必ず何らかの要素が前置または後置される。
[例]：“不知，不曉，知是，明知，自知”等。
- 5) 文字は出来る限り原文通りにした。そして、明らかに修正しなければならない箇所は括弧で示した。
[例]：“刘(=劉)，个(=個)，撰(=賺)，狀(=然)”等。

【第1回】

無。

【第2回】

■ “知道”

(高四嫂):莫說叫鄉裡議論,就是叫任裡晁爺知道,爺不喜歡。(2.3a.10)

(計氏):俺公公知道倒是極喜歡的,說他兒子會玩,會解悶,又會丟錢,不是傻瓜了。(2.3b.2)

(高四嫂):他待和他睡覺,憑他一夜兩夜,就是十來宿,我也不知道甚麼是爭鋒吃醋。(2.4b.6)

(計氏):他還不知怎麼頂撞俺娘哩。(2.3b.7)

(家人媳婦):大爺不知怎的,身上不大自在。(2.5b.8)

(計氏):這是忘八淫婦不知定下了甚麼計策,哄我前去,要算計害我。(2.6a.2)

(楊太醫):這等齊整,那珍哥落得受用,不知也還想我老楊不想。(2.8b.10)

(眾人):怪道人說鄆嫂子知今道古。(2.4a.7) [成語]

■ “曉得”

(眾人):俺那裡曉得。(2.4a.7)

簽上寫是如意君傳,幸得楊太醫也不曾掀開看,也不曉得甚麼是如意君,(2.8b.6)

【第3回】

■ “知道”

坐了半日,方纔說得話出,纔知道鞋都跌弔了。(3.7a.4)

(計氏):你那裡過好日,知道有新正月大節下。我在這地獄裡,沒有甚麼新年節到的。(3.10a.5)

(計氏):趁着他沒死,我哭幾聲,人知道是我訴冤。(3.10a.5)

(計氏):等他死了才(=纔)哭,人不知道只說是哭他哩。(3.10a.7)

(晁住):小人知道。(3.11b.1)

不意其中詳細都被一個丫頭聽見了,盡情學與珍哥知道。(3.12a.1)

晁大舍即時驚醒,方知是個異夢。(3.3a.3)

(計氏):俺明知多大些本事兒,便待要出得他們的圈套。(3.9b.2)

【第4回】

(晁大舍):我沒大看真,不知是四根,不知是六根。(4.5a.2)

(幾個莊戶):昨夜二更天氣,不知甚麼緣故,莊上前後火起,(4.7b.8)

晁大舍聽了,明知是取了金剛經進城,所以狐精敢于下手,(4.8a.1)

■ “曉得”

(童定宇):晚生原本寒微,學了些須拙筆,也曉得幾個海上仙方。(4.3a.1)

楊古月名雖是個醫官,原不過是個名色而已,何嘗見甚麼素問、難經,曉得甚麼王叔和脈訣。(4.8b.3)

【第5回】

(劉錦衣):不知他肯出不肯出。又不知幾時拿得來。(5.10a.6)

晁書二人乍見了,還不認得,細看方知是胡旦。(5.8a.1)

【第6回】

■ “知道”

(晁大舍):我想爹娘見在南邊,却如何只說北去。原來公公已預先知道了。(6.1b.9)

家人報與晁大舍知道。(6.4a.8)

(晁大舍):我的強娘娘。知不到甚麼,少要梆梆。(6.12b.3)

(那些鄉紳們):這個晁父母,不說自己在士民上刻毒,不知的,只說華亭風俗不厚。(6.2b.2)

(珍哥):你見甚麼來。北京城裡大似狗的貓,小似貓的狗,不知多少哩。(6.11b.7)

(珍哥):你爺兒們不知搞的是那裡鬼。(6.12a.9)

■ “曉得”

(那人):誰想那狐狸精不曉得這貓在外邊。(6.9a.5)

【第7回】

■ “知道”

(晁夫人):一似拿唱的也來了,沒敢叫偌知道,在京住着哩。(7.3b.2)

(晁大舍):老爺奶奶是怎麼知道有了珍姨。是那個說的。(7.4b.2)

回了晁老的一封書,寫道:兒幹的不成人事,豈可叫爹娘知道。(7.4b.9)

(晁知州):在你華亭時,不瞞你說,這樣的事也儘多,知道是那一起。但你二人的來意是要如何。(7.12b.6)

(晁老):源兒京中不知幹的什麼勾當,到了今日二十七,這時節多應又不來了。(7.3a.8)

那書寫道:聞汝來時,帶有側室,何不早使我知。(7.4a.2)

邢皋門方纔知是瞞了他申文書告致仕。(7.11a.1)

(晁知州):不知是那個喻秀才、張秀才。(7.12b.3)

■ “曉得”

(晁鳳):小人也不曉得老爺奶奶是怎樣得知的,只今早差了小人來接,說叫大爺即日回去,叫小人先走一步回話。

(7.4b.4)

晁大舍原不曾見過事體，又不曉得甚麼叫是忠孝，只見了這個光景，不要說起君來，連那親也都不顧。(7.8a.3)

【第8回】

■ “知”

那些也先怪異得緊，近前便認，方知是正統爺御駕親征。(8.2a.2)

說及華亭縣的事體，原要向蘇、刘(=劉)二錦衣求書，不知有了這等變故出來。(8.2b.3)

青梅那肚裡漸漸疼將起來，末後着實疼了兩陣，下了二三升焮黑的臭水，末後下了些微的鮮紅活血。與郎中說知。(8.8b.1)

(珍哥):既不認的他，你怎就知他是个姑子。你(8.13b.4)

*也有些道自己出來街上撒潑的不是。(8.18a.6)[鉛印本 1988 年版では“道”を“知道”に改竄している]

【第9回】

■ “知道”

偏那些木匠已都知道。(9.7a.6)

(計老):禹大哥。你是知道的。(9.10a.5)

(馮明吾):叫大爺已了个(=個)極沒體面。這事晁老叔也不得知道。是晁大哥幹的。(9.10a.6)

(計老):這是晁親家不知道的事，別提。(9.10a.7)

(計老):我再說一件晁親家知道的事。(9.10a.7)

晁大舍打聽得計氏收拾要回娘家去，倒也得計的緊，但又不知他幾時回去。(9.3b.6)

那時小珍哥平時威風已不知都往那裏去了。(9.5b.5)

■ “曉得”

曉得兒子是大軸子裏小軸子，画(=畫)裏有画(=畫)的了。(9.6b.6)

【第10回】

■ “知道”

(高四嫂):他雖是窮了，根基好着哩。俺城裏大小人兒，誰不知道計會元家。(10.10b.8)

(大尹):便宜你多着哩。你指着這個為由，沿門抄化，你還不知撰(=賺)多少哩。(10.8b.6)

(晁大舍):替他說公道話，臨了还(=還)要邦邦，不是大爺教人砍出來，他還不知有多少話淘哩。(10.13a.7)

寫道:若是官准了，却在那五百二字上面濃濃的使朱筆標一個日子，發將出來，那過付的人自有妙法，人不知鬼不覺，交得裏面。若官看了嫌少，把那丟在一邊，不發出去。(10.3b.8)[熟語]

■ “曉得”

那陰陽生曉得是為人命說分上的書，故意留難，足足繫了六兩銀子，方纔與他投下。(10.2a.10)

晁大舍已是曉得打了陰陽生。(10.3a.2)

(晁大舍):我曉得這意思了，却是怎麼進去。(10.3a.8)

(高氏):那計氏怎麼弔死，我却不曉得的。(10.5a.8)

(大尹):我曉得了。你過一邊去罷。(10.8a.4)

【第11回】

■ “知道”

(蕭夫人):司鼓的只見坐着這們大轎，跟隨着這們些人，他知道是誰。人為僭家來，休管他貴賤，一例待了他去。

(11.3b.4)

(丫頭媳婦們):大奶奶,你活着為人,人心裡的事,你或者還不知道。(11.5b.9)

(丫頭媳婦們)你如今死了為神,人心裡誰有良心,誰沒良心,大奶奶,你沒得還不知道哩。(11.5b.10)

(計巴拉):這伍聖道比邵強仁還兇惡哩。他一定知道是我拾了,回將來索要不得,定是用強搜簡(=檢)。(11.9a.9)

(方前山):這是嫌五百銀子少,还(=還)要叫他添六十赤金。晁家那半日內把城中金子都換遍了。轟動的誰是不知道的。(11.12b.4)

(蕭夫人):再說珍哥打扮的神仙一般,指望那孔家大大小小不知怎麼相待,却己了个(=個)齊鬍子雌了一頭髮,(11.3b.6)

晁大舍並不知是甚麼緣故,低三下四的相問。(11.3b.8)

(我<=計巴拉>):他換金子做甚麼用。他說道:那曉得做甚麼用。只見他滿城裡尋金子,(11.9a.6)

(方前山):難道這樣事,你們又不曉得。(11.12a.7)

(方前山):那一日,我剛在衙門傳桶邊(=邊)等稿,一个(=個)管家在傳桶邊(=邊)往外張了一張,把我不知錯認了是誰,叫我到跟前遞出一个(=個)帖來,却是伍小川邵次湖的稟帖。(11.12a.8)

■ “曉得”

(計巴拉):賢弟,你既曉得這等詳細,如何不透些信息與我,叫我們也準備一準備。(11.12b.8)

(方前山):表兄,你凡事推不曉得。你有我這個(=個)表弟,你又不曉得。我在礼(=禮)房,你又不曉得。適間不是我喚你,你到如今還不曉得有你這個(=個)表弟哩。我却往何处处(=處)尋你說信。(11.13a.1)

計巴拉到了家,與老計一一告訴了,方曉得裡邊有這許多的原委,(11.13b.5)

[第 12 回]

■ “知道”

(珍哥自從計氏附在身上採拔了那一頓,···)(晁源):你們明白說與知道,這却是為何。(12.6b.7)

(俺<=小柳青>爺):你既不認他,怎便知是個姑子。他說:沒的小青梅好合個和尚走麼。(12.13a.9)

待了不多一會,俺計老爺合計舅都來外頭。不知說的是甚麼,我沒聽見。(12.13b.2)

(小柳青):明日,還隔了一日,到黑夜,不知多俗就吊殺在俺姨那門上。清早小夏景起去開門看見。(12.14a.4)

(計巴拉):小的也不知过(=過)付與誰。只有他親筆稟帖朱筆為証。(12.5b.5)

(伍聖道、邵次湖):不知換甚麼金子,又不知是甚麼七百兩。(12.16b.4)

■ “曉得”

因臨清是馬頭所在。有那班油光水滑的光棍,真是天高皇帝遠,曉得怕些甚麼。奸盜豪橫,無日無天。(12.3b.8)

那珍哥不曉得什麼,只道還是前日這樣結局,雖是幾分害怕,也還不甚。(12.7a.2)

(晁源):乍聞說是和尚,心頭(=實)不平。後來曉得實是個姑子,也就罷了。(12.14b.4)

(四府):這是實情。惟其曉得他性氣不好,故將此等穢言加之,好教他自盡。(12.14b.6)

(珍哥):又一個大身材白胖的光頭,打我們走過,一時誤認了是和尚道士,後來方曉得是兩個姑子。(12.14b.10)

(珍哥):我只說了這幾句話,誰知晁源就喚了他的爹來,要休他回去。又誰料他自己就吊死了。(12.15a.6)

[第 13 回]

■ “知道”

珍哥問了抵償,方知道那鍋是鐵鑄成的,扯了晁大舍號淘痛哭。(13.1a.6)

(差人):褚爺雖是如此問,上边(=邊)還有道爺,還要三次駁審,你知道事體怎麼,便這等哭。(13.1a.9)
若是知道眉眼高低的婆娘,見他們打得雌牙裂嘴的光景,料且說得又不中用,且是又受了他這許多東西。
(13.9a.3)

四府看了稿,也明知是受了賄,替他留後着。(13.1b.7)

(計都):海會郭氏,合城士夫人家,無不出入的,係師尼,不係僧道,人所共知。(13.3a.3)

(計都):等你父親晁鄉宦回日,與他講理。遂往後面與計氏說知。(13.3a.5)

(招稿):計氏於初七日夜,不知時分,粧(=妝)束齊整,潛(=潛)至氏房中門上,用帶自縊身死。(13.3b.9)

方知駁了本府,但不知怎樣批詳。托了原差,封了二兩銀子,往道裡書房打聽。(13.8b.5)

那高四嫂只說刑廳問過了,也就好回去,不料還要解道,如今又駁了本府,聽的說還要駁三四次,不知在那州那縣,那得這些工夫跟了淘氣。(13.9a.2)

却說伍小川也明知死在早晚。(13.12a.4)

【第14回】

■ “知道”

那晁老知道兒子不大認得字。(14.10a.8)

那晁老知道兒子不大認得字。(14.10a.8)

又知典史還要從本衙經過,機會越發可乘,叫家中快快備辦卓盒煖酒。(14.3a.7)

(家人):家主晁相公聞知老爺寒天查夜,心甚不安,特備了一杯煖酒伺候老爺御寒。(14.3b.5)

(典史):兩三個丫頭伏事,都不知是怎麼樣進去的。適纔把那些禁子每人打了十五板。(14.5a.3)

晁大舍進到家內,晁鳳遞過書來,又有一搭連拉不動這般沉的不知甚麼東西。(14.10a.8)

(珍哥):李成名不知怎麼,只合他生生的,支使不慣他。(14.10b.10)

■ “曉得”

(典史):昨日監中實是不曾曉得,所以誤有衝撞。我昨晚回來立刻就叫人放出,仍送進房裏宿歇去了。(14.6b.6)

只因那個長髮背的老鬍只曉得罰銀罰紙罰穀罰磚。(14.9a.1)

此外還曉的管些甚麼。(14.9a.2)

(晁大舍):難道不曉得我在家裏與人打官司要銀子用。(14.10b.2)

晁大舍明明曉得自己見鬼,甚不喜歡,只得壯了膽,往前撞着走。(14.12b.8)

【第15回】

■ “知道”

(晁大舍):只知道,休叫老奶奶聽見。就是別人跟前也休露撒出一個(=個)字來。一百兩銀子的賞哩。(15.5b.10)

又囑付教不要與邢皋門晁鳳、晁書知道。又過(=過)了一日,晁大舍把一本報後邊(=邊)空紙內……。 (15.7b.4)

却不知怎樣,那舉國就像狂了的一般,也不論甚麼尚書閣老,也不論甚麼巡撫侍郎, (15.1b.6)

臨要上岸,又與小班鳩在官艙後面,却不知做了些甚麼事件,喘吁吁的出來。(15.4b.2)

(晁夫人):你既知他是戲子小唱,誰叫托他做事,受他的好處。(15.5a.2)

(晁書):明日你去罷。掙了賞來也都是你的。不知怎麼,我往京裏走的生生的。(15.6a.2)

(丫鬟 媳婦們):不知為甚。(15.12b.7)

■ “曉得”

那晁大舍驢耳朵內曉得甚麼叫是忠言,旁邊又有一个(=個)父親幫助他。(15.5a.5)

(晁大舍):娘曉得甚麼。人誰不先為自己。(15.5a.7)

(晁老):你女人曉得麼。大官兒說得是。(15.5b.1)

(胡、梁):這兩個差人只見我們兩個換了這襤褸衣裳,便却放不在眼裡。那曉得我們是晁大舍的義弟。(15.9a.4)

(晁老):我不曉得這是怎生的說話。這等一个(=個)絕好的兒子,我們正要在手裏享福,快活半世哩。(15.13a.3)

晁夫人還不曉得把他的銀子劫得分文不剩,衣服一件也不曾帶得出去。(15.13a.9)

大家着實解勸了一番,安慰了晁夫人。事也不免張揚開去,那邢梟門也曉得了。(15.13b.1)

[第 16 回]

■ “知道”

又知道他與梁生胡旦結拜兄弟,這又是絕低不高,沒有廉耻(=恥)的人了。(16.7b.2)

(晁書):想是想出這個絕戶計來了。你們說奶奶依他做這事,奶奶那裏知道。(16.10b.3)

(晁書):他却瞞了奶奶,把你們打發出來了。那一日,連我們也不知道。(16.10b.6)

(晁書):後來奶奶知道,自己惱得整兩日不曾吃飯,哭了一大場,幾乎一繩吊死。(16.10b.7)

晁夫人知道兒子當真做了這事,又見他病將起來,(16.12a.7)

知道晁老的為人,夫人的好話只當耳邊之風。(16.12a.7)

却不知怎的,那晁夫人生在這樣人家。(16.6b.6)

晁源轉背去了,他也不知是幾時脫離。晁源口裏說的是東南,邢梟門心裏尋思的却是西北。(16.7a.4)

又指望邢梟門不知怎樣的奉承,(16.7a.6)

那知他又大落落的,全沒些做保。若與他一溜雷發狂胡做,倒也是個相知,却又溫恭禮智,言不妄發,身不妄動的人。

(16.7a.7)

(晁老):不知敢借重否。陸給諫道:待我探他一探,再去回報。(16.4b.3)

(晁書):及至打發早飯,方知你們出去了。(16.10b.6)

<心里描写>:罷,罷,我這幾年裏邊,積得也有些私房,不知夠與不夠,我留他何用。(16.12b.2)

(晁書):這事奶奶夢也不知。奶奶有幾兩私房銀子,如數替他償還。(16.12b.5)

■ “曉得”

邢梟門就是又清又白的醇酒一般,只除了那吃生蔥下燒酒的花子,不曉得他好。(16.4a.4)

晁老雖是肉眼凡睛,不甚曉得好歹,畢竟有一條花銀帶在腰裏的造化,便也不大與那生蔥下燒酒的……。 (16.4a.5)

且甚是光明正大,從不曉得與那些家人們貓鼠同眠,也並不曾到傳桶邊與外人交頭接耳。(16.6a.1)

外邊的人也並沒有人曉得裡面有个(=個)邢相公。(16.6a.2)

有了這等一个(=個)人品,晁老雖不曉得叫是甚麼無思不服,却也外面不得不致敬盡禮。(16.6a.3)

他的父親也曾請了一个(=個)秀才教他兒子讀書,却不曉得的稱呼甚麼先生,或叫甚麼師傅,同了別的匠人叫做學匠。

(16.6a.6)

他却曉得異樣尊敬那个(=個)西賓(=賓),一日三餐的飲食,一年四季的衣裳,事小節,無不件件周全。(16.6b.7)

見晁源棄了自己的結髮,同了娼妾來到任中,曉得他不只是个(=個)狂徒,且是沒有倫理的人了。(16.7b.1)

又曉得他聽了珍哥的說話逼死了嫡妻,又是忍心害理的了。(16.7b.3)

又曉得他把胡旦、梁生的行李銀子擠了个(=個)乾淨,用了計策,赶(=趕)將出去,這又是要吃東郭先生的狼一般了。

(16.7b.4)

(晁書):這些詳細,不是你們告訴,莫說奶奶,連我們眾人都一些也不曉得。(16.10a.9)

(晁書):這奶奶還不曉得把你們的銀子衣裳都擠了个(=個)罄淨。(16.11a.1)

【第17回】

■ “知道”

(神將):你的行李,我已與你取得出來交與女善人收住。早間就有人來報你知道。(17.3b.7)

片雲無翳又將晁夫人要出行李的始末,當了晁書告訴長老知道。大家甚是詫異。(17.4a.5)

人把那見神見鬼他自己下床來掇銀子搬皮箱晁夫人禱告許願心的事,大家都眾口一詞,學與知道。(17.10a.1)

只是晁老、晁源影也不曉得他在香巖寺做了和尚。若早知道,也不知從幾時趕得去了。(17.12b.8)[曉得=知道]

二人醒來,却是一夢。二人各說夢中所見,一些不差,知是寺中韋陀顯聖,清早起來,就與長老說了。(17.3b.8)

不知因甚緣故,科裏的揭帖偏生不帖出來。(17.6a.6)

看了那稿上的說話,却不知從那裏打聽去的,就是眼見也沒有看得這等真。(17.6a.9)

(曹銘):小的愚見如此,不知以為何如。(17.8a.9)

(百姓):斷沒有再還我們的理。我們且要跟了隨衙聽審,不知幾時清結,倒悞了作庄(=莊)家的工夫。(17.9a.9)

■ “曉得”

只見鄭醫官打得牙把骨一片聲響,身上戰做一團,人都也曉得他是瘧疾舉發。(17.2a.3)

(抄報的):揭帖還不曾發抄,人尚不曉得本上說是甚的。(17.5b.8)

可煞作怪,這幾件物事沒有一個人曉得的。(17.11a.2)

晁夫人看見,心裏明白。晁鳳、晁書也曉得這是梁生、胡旦。(17.12b.7)[明白=曉得]

【第18回】

■ “知道”

那些媒婆知道晁夫人回來了,珍哥已就出不來了,每日陣進陣出,俱來與晁大舍提親。(18.1b.10)

晁大舍預先知道了,擺下齊整大酒,請下鄉宦姜副使胡翰林相陪。(18.12b.2)

那秦小姐知道事要垂成,只得開口對夫人說道。(18.12b.7)

(老爺):題親的雖是極多,這兩門我倒都喜歡,但不知大官兒心下何如。(18.3a.2)

若請个(=個)明醫來看,或者還有救星,也不可知。晁源單單要請楊古月救治。(18.9a.2)

(陳方伯)大怒道:孝子不知事體,怎麼相禮的諸兄也都不說一聲,陷人有過之地。(18.9b.2)

■ “曉得”

(媒婆):我那裏曉得。(18.3b.4)

【第19回】

■ “知道”

(小鴉兒):他將東西送你,大官人知道不曾。(19.4a.1)

(晁住娘子):狗。脫不了是個人,上頭一個嘴,下頭一個屁,胸膛上兩個奶頭。我說他那模樣,你就知道了。(19.6a.4)

姓耿的道:東邊晁家宅內有幾座空房,不知有人住了不曾,你上完了鞋,我合你同去看看。(19.1b.7)

(唐氏):我當大官人不知怎樣難為人的,却原來這們和氣。(19.5b.6)

(唐氏):使這們些銀子,一定不知怎麼標致。(19.6a.3)

可也不知是甚的緣故,晁住也不想他的老婆往鄉裏來了一向,也不出到庄(=莊)上看看。(19.6b.7)

你叮我囑,只教不許人知。此後凡有問房的,故意嫌生道冷,不肯招住。(19.8a.7)

唐氏聽見了,慌忙開門出來,接進晁源房去,悉溜刷拉,不知幹些甚事。(19.9a.1)

小鴉兒拿着香去點火,晁源人不知鬼不覺走回去了。(19.9b.5)

再說天下的事,若要人不知,除非己莫為。那唐氏自從與晁源有了話說,他那些精神丰采自是……。 (19.10b.2)

不知這事後來怎生結束,再看後來接說。(19.15a.5)

■ “曉得”

晁大舍曾撞見了兩次,曉得房客裏面有這個美人。(19.3a.5)

晁大舍曉得小鴉兒在家裏,故意脚影也不到前邊,就是偶然撞見唐氏,正眼也不看他一眼。(19.8a.8)

那時月亮照得屋裏明明的,怎曉得門後邊躲着一個人。(19.9b.3)

打小廝,罵家人,查那些房客與行走的佃戶。嚷得一地都曉得晁大舍失落銀子。(19.10b.7)

小鴉兒曉得是往晁源後邊去了。(19.14a.4)

[第20回]

■ “知道”

(晁思才 晁無晏):有夫從夫,無夫從子。如今子又沒了,便是我們族中人了。如何知也不教我們知道。難道如今還有鄉宦,還有監生,把我們還放不到眼裏不成。(20.7b.3)

(晁思才):這可說甚麼來。兩三次通 瞞着俺,不叫俺知道,被外頭人笑話的當不起。(20.8a.6)

(大尹):到分娩了,報本縣知道,就用這個老娘收生。說完,請宜人回宅。(20.16a.4)

(晁夫人):兒阿。你一些好事不做,專一幹那捉撻短命的營生,我久知你不得好死。我還承望(20.3a.10)

圍住了人山人海的擠不透縫,知是晁大舍的首級,千人萬人,再沒有一個人說聲可惜可憐不該把他殺了。(20.4a.10)

進了城,方知是小鴉兒自己殺的,從頭又改了呈子,也隨投文遞了。(20.4b.7)

(小鴉兒):不知從幾時姦起,只是形跡久已可疑。小人也留意撞了幾遭,不曾撞着,昨夜方得眼見 是真。(20.4b.9)

看得晁源死了,不知晁老新收的那個春鶯有了五個月遺腹。(20.7a.6)

雖不知是男是女,却也還有指望。以為晁夫人便成了絕戶,把這數萬家財,看起與晁夫人是絕不相干的。(20.7a.7)

(眾人):你合奶奶說知,可與我們做下,穿着出去行香也大家好看。我們家裏的也都要來弔孝哩。(20.8b.2)

■ “曉得”

(晁住娘子):我老早的就進東屋裏關門睡了,他上房裏幹的事,我那裏曉得。(20.2a.5)

(季春江):你怎麼便曉得是小鴉兒媳婦。(20.2a.6)

(縣尹):你怎的曉得。回說:小人起初先到了東房,看得不是,所以方纔又往北屋裏去。(20.5b.4)

所以第十九回上敘的那些情節都從趙氏口中說出來的。不然,人却如何曉得。(20.6b.6)

(眾人):一定不曉得我們今日來,沒曾預備,俺們到打醮的那日再來。(20.8b.1)

尋了幾個頭口,豺狗陣一般趕(=趕)將出去,曉得晁夫人已進城去了,起先也已了一個嘴谷都。(20.9a.9)

那些人打搶得高興,夢也不曉得縣官進到廳前。(20.12a.1)

那些婆娘曉得要去拿他,扯着家人媳婦叫嫂子的,拉着丫頭叫好姐姐的,鑽竈突的,躲在桌子底下的。(20.14a.6)

把些眾人心裏胡亂疑猜，不曉得是為甚的。(20.15a.3)

[第 21 回]

■ “知道”

那个(=個)小孩子才(=纔)下草，也不知道羞，明掙着兩個(=個)眼，狄良突盧的亂看。把眾人喜的慌了。(21.5a.6)

(晁夫人):向日(=日)徐大爺親自分付說道:等分娩了，叫去報他知道。又分付叫就用徐老娘收生。(21.5b.7)

(晁鳳):今日得了小主人，待來報徐大爺知道。珍哥道:是誰生的。(21.6a.6)

(晁無晏老婆):叫我說:呀。這是甚麼去處，叫人掏嗤掏嗤的。後來纔知道是看春姐。(21.9a.3)

進去看他一看，只見他兩條玉柱拄在膝上，不知從幾時圓寂去了。驚動了合寺的僧眾，傳遍了京城。(21.3b.7)

炤(=照)着晁夫人的臉合鼻子，碧清的一泡尿雌將上去，笑的一个(=個)家不知怎麼樣的。(21.9a.8)

(晁夫人):你們家去罷。我看頭年裏不知有工夫沒有，要不就是過了年，我還有話與你們講。(21.9b.8)

但只看了他的母親的行事，便料得他兒子的收成。再看下回，或知分曉。(21.13a.10)

■ “曉得”

其里老什排都曉得大尹與他做主，不敢上門作賤。(21.1b.1)

片雲醒轉來，記得真真切切的。這夢，告訴了長老合無翳都曉得了，從此即淹淹纏纏的再不曾壯起。(21.3a.3)

雖狀(=然)才(=纔)滿月的孩子，怎便曉得後來養得大養不大。(21.13a.9)

[第 22 回]

■ “知道”

(晁思才老婆):情管是為你昨日賣了墳上的兩科柏樹，他知道了，叫了眾人去數落哩。(22.3b.7)

(晁夫人):如今天老爺可憐見，雖不知道是仰着合着，我目下且有兒了。既有了兒，這家業可是我的了。(22.5a.4)

(胡無翳):他知道小奶奶懷着孕。(22.7a.7)

那晁思才一干人狼吞虎咽(=嚥)的喫完了飯，說與晁夫人知道了。(22.9a.2)

(晁夫人):這鄉裡人家極會欺生，您是知道的。您打夥子義義合合的，他為您勢眾，還懼怕些兒。(22.12a.4)

(晁思才):三官兒，你就知不道我的為人。我有個臉麼。你當我嘴上長的是鬍子哩。(22.3b.5)

(晁夫人):開口就講甚麼偏，我雖是女人家，知不道甚麼，一像這個偏字，是個不好的字兒。(22.12a.2)

(晁書娘子):那一日不虧了徐大爺自己來到，如今偕娘兒們正繫的不知在那裡哩。(22.1b.5)

(晁夫人):我起為頭也恨的我不知怎麼樣的，教我慢慢兒的想，偕也有不是。(22.1b.8)

(晁夫人):我想偕攬的物業也忒多了。如今不知那些結着大爺的緣法，一應的差徭都免了偕的。(22.2a.10)

(晁思才等):昨日嫂子差了人去，說合俺們說甚麼，叫我們早來，不知嫂子有什麼分付。(22.5a.1)

(晁思才):嫂子叫了俺來是說這個麼。又不知待要說甚麼，晁無晏道。(22.5a.6)

(晁思才):阿彌陀佛。嫂子，你也不是那世上的凡人，你不知是觀音奶奶就是頂上奶奶托生的。(22.6a.2)

(胡無翳):貧僧一則來與奶奶拜節。二則掛念着，不知添了小相公不曾。(22.7a.6)

(長老):走進去，只見鼻子裏拖下兩根玉柱，直拄着膝上，不知那個時辰就圓寂了。(22.8a.3)

(晁近仁):愛(=愛)。為個人只是不知足。(22.10a.8)

(晁夫人):可不知那時都是實錢實契的不曾。若你們有甚麼冤屈就說，我自有處。(22.12b.3)

[第 23 回]

大家小戶都不曉得甚麼是念佛喫素，叫佛燒香。四時八節，止知道祭了祖宗便是孝順父母。(23.2b.9)[曉得=知道]

李大郎因舒秀才的為人,知他有兩個女兒,一個十五歲,一個十三歲。(23.10b.5)

(祝其嵩):我剛纔到(=倒)在四牌坊底下拾了一個白羅汗巾,顛着重重的,不知裡面是些甚麼。(23.12a.2)

■ “曉得”

里長只是分散由帖的時節,到到人家門上,其外並不曉得甚麼叫是追呼,甚麼叫是比較。(23.3b.3)

【第 24 回】

■ “知”

[詩]:悠揚笛韻,不知何處飛來。縹緲鐘聲,應自上方遞至。(24.8b.1)

(師涓):此亡國之音,習他何用。不知此等的水也都載入志書。(24.10a.7)

秦始皇時曾遣道士徐福發童男女各五百人入洲採藥,後竟不知下落。(24.10b.5)

■ “曉得”

富貴的不曉得欺那貧賤,強梁的不肯暴那孤寒,却都像些無用的愚民一般。(24.1a.10)

【第 25 回】

■ “知”

(薛教授):若說起敝鄉的光景,越發不成道理了。不知貴處這裏也許外人來往麼。(25.3b.5)

(狄員外):你們薛爺對我告訴,也說從有算命的許他五十四上先要開花。不知小夫人有甚喜信。(25.4b.10)

因府考沒有銀子尋分上,每次不得進道,這一次不知怎的得闖進道去,高高的進了第二。(25.7b.7)

(素姐):我不知怎麼,但看見他,我便要生起氣來,所以我不耐煩見他。(25.12a.6)

後來不知怎生結果,再看下回接說。(25.13b.1)

不一日,薛教授帶了家眷,在三四十里路上先差了薛三省來看下處。知得凡事齊整,飛也似去回了話。(25.6a.1)

■ “曉得”

(狄員外):敝處本土的人,只曉得種幾畝地就完了他的本事,這撰(=賺)錢的營生是一些也不會的。(25.3b.10)

也吃得幾杯酒,却從不曉得撒甚麼酒風。那花柳門中,任你甚麼三朋四友,哄他不去。(25.9a.3)

也不曉得呼喚甚麼爹娘,叫單于民是老牛,叫單于民的婆子是老狗。(25.9a.9)

(薛教授):昨臨來的時節,也只得娶了一人,但不曉得天意如何哩。(25.3a.6)

【第 26 回】

■ “知道”

任你怎樣再去央他,他不勒措你个(=個)夠,還多要了錢,仍要留一个(=個)後手,叫你知道他的手段。(26.11a.4)

那些後生們戴出那蹺蹺古怪的巾帽,不知是甚麼式樣,甚麼名色。(26.3b.10)

口裏說得都不知是那裏的俚言市語,也不管甚麼父兄叔伯,也不管甚麼舅舅外公。(26.4a.3)

你只有了錢,不論平日根基不根基,認得不認得,相厚得不知怎樣。(26.4b.2)

開進房去一看,連炕上的一領蘆蓆都不知從幾時揭得去了,口裏罵道:……。 (26.6b.3)

再是那樣手藝的匠人,有些甚麼要緊生活,叫他來做做,自在得他也不知怎樣。(26.10b.9)

騎了頭口,撞見主人的親朋,下也不知下一下。日漸月漬,起初只是欺慢外人。(26.11b.7)

■ “曉得”

天下的風俗,也只曉得是一定的厚薄,誰知要因時變壞。那薄惡的去處,這是再沒有復轉淳龐。(26.1a.7)

得做就做,得為就為,不管甚麼是同類,也不曉得甚麼叫是至親。(26.2b.1)

不管那書背得來背不來，做寫得好寫得不好，把書上號的日子，做上判的硃頭，書上的字也不曉得與他正一正，做上的字也不曉得與他改一改。(26.2b.6)

有那做文章的，也並不曉得先與他講講這個(=個)題目，該斷(=斷)做，該順做，該先斷(=斷)後順，該議論帶敘事。(26.2b.10)

只曉得丟个(=個)題目與你，憑他亂語，胡亂點幾點，抹兩抹，驢唇對不着馬嘴的批兩個字再上面。(26.3a.2)

前輩的鄉紳長者，背地裡開口就呼他的名字。絕不曉得甚麼是親是眷，甚麼是朋友，(26.4a.10)

一味只曉得叫是錢而已矣。(26.4b.1)

碗裏有殘剩的甚麼湯飯，從不曉得拾在口裏吃了，恐怕污了他的尊嘴，拿布往地下一綽。(26.10a.3)

他也粧(=裝)模作樣，坐在門口，看見親朋走過，立也不曉得立一立起。(26.11b.6)

【第 27 回】

■ “知道”

麻從吾知道這丁利國(=國)是个(=個)肯周濟人的好人。(27.4a.7)

那把門的問了來歷，知道是姓丁的兩口子來了，把那跟的人掐了字頁(=牒)子往外一類。(27.7a.5)

(麻中桂):他只怕沒顧瞻爹和娘，我知道從八歲吃他的飯。(27.9b.2)

(丁利國):你有甚不得已的事，或者我的力量可以與你出得力也不可知。(27.4b.4)

那跟去的人到了衙門口，一來是山裏人家，原也不知事體。(27.7a.4)

(店主婆):他病得這等重了，趕他往那裏去。萬一死得不知去向，他家裏有人來尋，怎樣答應他。(27.11a.5)

誰知那個罈都下老實的重。走路的看了，不知是甚麼物件在內。(27.12a.8)

這等顯應，他作惡依舊作惡，不知叫是甚麼省改，只等後來盡頭的異報纔罷。(27.14a.6)

■ “曉得”

若這些孽種曉得是獲罪于天，大家改過祈禱(=禱)，那天心仁愛，自然也便赦罪消災。(27.1b.8)

却是這些人恃了節年的收成，不曉得有甚麼荒年，多的糧食，大鋪大騰，賤賤糶[tiào]了，買嘴吃，買衣穿。(27.2a.10)

(丁利國):我既許出了口，你却不要管我。我若來時，只問做豆腐的丁善人，人都曉得。(27.5a.7)

雖是麻從吾幹了這件刻薄事，淮安城裏城外，大大小小，沒有一個不曉得唾罵的。(27.10b.8)

【第 28 回】

■ “知道”

(孟夫子):你却不知道那水也是件至寶的東西，原該與五穀並重的，也不是普天下都一樣滔滔不竭的源流。(28.7b.4)

但只心裏也知道不是个(=個)野道士，必定是个(=個)神仙。(28.13b.3)

新人到一更天氣，等人睡盡了，穿着得齊整，用帶在自己房內吊死了。次日方知。(28.3b.3)

那小人家那得頭口，只得用人去挑。不知怎樣的風俗，挑水的都盡是女人。(28.9a.10)

蒙了水的如此大利，大家不知報功，反倒與水作起仇來。(28.10a.6)

(那人):他既未卜先知，或者有些效驗也不可知。(28.11b.6)

■ “曉得”

新人肚裏明白，曉得吃了虧，口裏一字也不曾說破。(28.3a.8)

嚴列星的心裏明白，嚴列宿那裏曉得這(=個)原故，就是神仙也猜不着。(28.3b.3) [明白=曉得]

誰知人也就都曉得，漸漸的又來了好幾個(=個)人，都有器械，齊吶了一聲喊，撲到跟前。(28.5b.3)

真君偶然不出化齋，他就一碗稀湯水飯，也不曉得虛讓一聲。幾番家吃醉了，言三語四，要輦真君出去。(28.10b.9)

他坐了一把醉翁椅子，仰天蹺脚的坐在上面，見真君出入，身子從來不曉得欠一欠(=欠一欠)。(28.11a.2)

(那人):娘子生產不下，看着要死，他却如何曉得。但這泥丸如何得有效驗。(28.11b.5)

那張水雲合陳雀(=鶴)翔見了，不勝詫異，只是不曉得那詩中義理，不知說得是甚。(28.13b.2)[不曉得=不知]

【第 29 回】

■ “知”

(狄員外):廚房離這裏差不多有一箭地，我一些不知，偏師傅知道，這不是異事麼。(29.9a.7)[知=知道]

(狄員外):你要問道人討藥，不曾說得。道人如今留下藥了，叫使黃酒送下。但不知你要治甚麼病的。(29.10a.2)

(有一个(=個)戴金冠騎龍的):不知混在何處去了，那裡找尋。(29.14a.9)

(那判官):該早令我知。被他看了木(=本)形，是何道理。(29.3b.10)

(美少年):不知賢侄下顧，致將醜形相犯，使賢姪有百日之灾(=災)。(29.4a.3)

酒至數巡，祁伯常自知死期將到，還有甚麼心緒，只是悶悶無聊。(29.4b.10)

(少年):偶然因賢姪在此，忙迫忘記了鎖門，如何便輕自窺視。這是會同功曹，奉了天旨，知會了地藏菩薩，牒轉了南北二斗星君，方纔註簿施行，怎麼那(=挪)移。(29.5a.6)[知會=口頭通知。告訴]

■ “曉得”

(真君):從不曉得甚麼仙術，只是夯(=募)化齋飯充饑。(29.8a.4)

(娘子):我還有甚麼第二件病來。這是我心舉了一舉意，他怎麼就便曉得。(29.10a.3)

那兩大得緊，曉得是要發水了，大家扎縛衣裳，尋了梯子，一等水到，合家都爬在院子內那株大槐樹上。(29.13b.8)

【第 30 回】

■ “知道”

(晁夫人):怎麼得他有靈有聖的，還托个(=個)夢叫我知道纔好。(30.11b.9)

(晁書娘子):觀其大婦諸般靈聖，情管來托夢叫奶奶知道。(30.11b.10)

(晁夫人):我倒不知道，回復他个(=個)屁來。這們些年，他何嘗提个(=個)字兒。(30.14b.8)

(晁夫人):你兩次托夢，我是个(=個)老實人，不會家參詳，又不知你待要如何。(30.5b.3)

(晁夫人):你看我混帳，我都沒想到這裏。我只記的他生日是二月十一日，不知甚麼時，記不真了。(30.6b.4)

在那陰司裏不見天日，只除有了替代，方許托生，且還不知托生得好與不好。(30.3b.5)

(晁夫人):叫我費了這們一場的事，也不知果然度脫了沒有。(30.11b.8)

計老頭得了這板，不惟濟了大用，在那枕頭上與晁夫人不知念夠了幾千幾萬的阿彌陀佛。(30.15a.1)

若是那關老爺，這是人所皆知，更不必絮煩說得。(30.2a.6)

就是晁源，也自知理虧，躲在門後邊像縮頭的死鱉一般。(30.4a.3)

姚少師明知他後來不得善終，只是溺愛了，不忍說破。(30.9a.1)

■ “曉得”

人人都曉得是珍哥的狡計，个个(=個個)都說晁源的薄情。(30.4a.2)

【第 31 回】

一个(=個)潑天大富，兩代方面的人家，人人都知他蓄有十萬餘糧。(31.10a.1)

有回話出,說曉得了,有與典史相見,說合大家商議的。(31.9b.2)

【第 32 回】

■ “知道”

也搜括了幾百石穀,一边(=邊)平糶,一边(=邊)煮粥。晁夫人知道,差人與他去說。(32.4b.2)

這只怕那慷慨的男子也還做不出的事,他却輕省做了,却不知道也受了多少的鬧氣。(32.6b.2)

他那媳婦子知道,慌了,央了許多街鄰合鄉約公正,都齊去央那駟(=驛)丞,做了个(=個)開手。(32.10a.3)

(晁鳳):難為除了七爺,還有七家子哩。不消別人,只叫二哥知道,我吃不了他的,只好兜着罷了。(32.11a.6)

那修行的人修到那將次得道的時候,千狀百態,不知多少魔頭出來瑣碎。(32.5b.10)

每因一件小事,不知要干連多少家人(=人家)。人到了這個田地,也怪不得他恨地怨天。(32.2a.9)

(晁思才):光只俺兩口子,這一日不知替嫂子念多少佛,願謂姪兒多少。一日兩頓飯,沒端碗,先打着問心替嫂子念一千聲佛。(32.11b.1)

■ “曉得”

(晁夫人):你看我通是做夢。外頭這們亂烘,我家裏一點兒也不曉的。這不是自作自受的麼。(32.10a.6)

【第 33 回】

■ “知道”

(狄員外娘子):這們大小,讀了五六年書,一个(=個)送禮的帖子還叫个(=個)老子求面下情的央及人寫,你也知道个(=個)羞麼。(33.7b.3)

(狄員外):你還不快着取書去哩。惹起你娘的性子來,你是知道的,我還敢扯哩。(33.7b.8)

你不問鄉宦家使那重價回他,又不怕你不往遠處馬頭上去買。買得回來,還不知中意不中意。這一件是秀才可以做得生意,做不得了。(33.2a.7)

如此白手求財,利名兼盡,豈不美哉。却不知這等好事之中,大有不好之處。(33.3b.7)

若是人家請去,教了一年,又不知他次年請與不請。(33.5b.6)

他眼又不看着字,兩隻手在袖子裏不知舞旋的是甚麼,教了一二十遍,如教木頭的一般。(33.10b.6)

程樂宇乍然看見,也還吃了一驚,仔細認得是人,又細看方知就是狄希陳。(33.14a.10)

■ “曉得”

所以千回萬轉,總然只是一個教書,這便是秀才治生之本。但這教書又要曉得纔好。(33.5a.10)

先生睡起一大覺來,那花已蔭得乾燥,吊在一边(=邊),連先生曉也不曉得,只是染得一个(=個)血紅的鼻子。(33.13a.10)

先生炤(=照)鏡,見好好的把个(=個)鼻子齷[zhā]了,悶悶可可不快活。那曉得是他弄的神通。(33.13b.1)